

「主こそ真の王」

2025.11.12

聖書に学ぶ 27

I サムエル記 12:13～15

13:1～23

主なる神が、私たちの願いを聞いてくださらない時があります。どういう時でしょうか。

主なる神がは、私たちの願いを聞いてくださる時があります。どういう時でしょうか。

今日の話には、そのヒントとなることがあります。

今日の学びの要点

主なる神こそ真の王です。サウルは神に任命された王であるのに、神のみこころを伝えるサムエルより、民の感心を第一しました。彼の心の王は自分自身でした。

このとき彼は、主に従うことをなおざりにして、悔い改めることをしませんでした。

I、王とは何者なのか

(Iサムエル記 12:13～15)

1、敵を撃退した後、人々はサウルを担ぎ上げ、王にしました。

① サムエルは民も選ばれた王も、どうするようと言っていますか。

(Iサムエル記 12:14)

② 人は、見えない神を頼るよりも、見える王を頼りたくなります。その王が主に従わないときはどうなると言いましたか。(Iサムエル記 12:15)

サウル：若者の頃(20才前後)油を注がれる→ ギブアで牛を飼っていた→ 30才アマレクに勝利=**王**になる
(9:2) (11:5) (11:14)

II、ペリシテと戦う

(サムエル記 13:1～4)

1、ペリシテとの戦いは、どうして始まったのでしょうか。

① ヨナタンは独断で、ペリシテの守備隊を襲うような事をしたのでしょうか。

(サムエル記 13:6)

② イスラエルとペリシテの国力や軍備の差を見ましょう。（サムエル記 13:19～22）

2、ルカ 14：31～32 を読みましょう。

圧倒的に不利な状況です。しかしサウルは招集のラッパを吹きました。この大きな挑戦に踏切る根拠は何でしょうか。（サムエル記 11:15）

Ⅲ、サウルの失敗（サムエル記 13:4～23）

1、対峙する、ペリシテ軍のおびただしい軍勢に、イスラエル軍はどうしましたか。（サムエル記 13:6～7）

2、戦いの前にサムエルが献げ物をする事が決まっていた。サウルはどうしたのでしょうか。

①尋常では勝てない状況下で、神様に頼ろうとしていたサウルの心の思いはどう変わったのでしょうか。（Ⅰサムエル記 13:8）

②サウルは神様のみこころに従うのと、自分の思いを通すのと、どちらを選びましたか。サウルの心の中心には、誰がいるのでしょうか。

③サウルは王ですが、祭司ではない。

3、Ⅰサムエル記 15:22 を読みましょう。サウルは主に従わないで失敗した事について、どうすれば良かったのでしょうか。